

勤務中の保育者の身だしなみ

筑波大学 水野智美

筑波大学 徳田克己

I. 問題の所在と目的

女性が化粧をする行動には、「化粧への関心」と「化粧の習慣」が関係し、顕示欲求が強いほど化粧をする傾向があると言われている（笹山・永松，1999）。また、平松・牛田（2004）が大学生を対象に、どのような意識で化粧を行っているのかについて実施した研究より、化粧は自分のためだけではなく、他者からどのように見られるのかといった他者との関係を意識して行われていることが明らかになっている。さらに、日本の社会人女性にとって、外出時の化粧は身だしなみと考えられる傾向があり、職業によって、どのような化粧をすべきであるのかが強く意識されていることが指摘されている（平松・牛田，2007）。その背景に、外見上の身体的魅力が高いほど好意的に評価され（大坊，2001）、特に対人関係を結ぶ初期段階で、容貌、スタイル、服装などが相手との関係に大きく影響する（安藤・大坊・池田，1995）ことが関係している。

これまでに様々な職種別に、どのような化粧が求められるかが検討されてきた。清水・森田（2016）が大学生を対象に、カウンセラーに求める身だしなみに関して行った研究では、カウンセラーには、清潔感が必要とされ、薄い化粧、黒髪、束ねられた髪型、華美ではない服装が求められていた。また、萩（2017）が看護師、患者、家族を対象に看護師に求められる身だしなみを扱った調査の結果では、「濃い・派手」な化粧をしている看護師は、看護師、患者、家族ともに「話しかけにくい」「近づきにくい」「怖い」印象が強くなること、看護師の化粧として

最も好印象であったのは、看護師、患者、家族ともにファンデーションと眉ずみ、チーク、口紅をぬっている人であり、アイシャドーやマスカラを使っている場合に、看護師の身だしなみとして好ましくないと考えられる傾向があることが明らかになった。すなわち、対人援助職に従事している女性にとって、どのような化粧をするかが相手との信頼関係を築き、援助をする上で重要な要素となってくると言える。

保育の場においては、保育者養成校に通う学生が実習を行う際に、身だしなみに配慮するように各養成校で指示されることはあった。しかし、保育者として就職した後の化粧や髪型については、ほとんど議論されてこなかった。また、保育者はいつも子どもから化粧や髪型を見られており、子どもの身近にいるモデルになっているのである。

現代の日本の幼児向け雑誌のなかには、化粧に関する話題が多く取り上げられ、付録として子ども用のコスメが付いていることがある（徳田・水野，2018）。さらに、玩具店には様々な種類の子どものコスメが販売されている。加えて、テレビや雑誌などで、化粧をした子どもが映し出される機会も増えてきた。このような状況により、幼児にとってコスメが身近な物となり、化粧への憧れが強くなってきている。我が子が、雑誌に掲載されていた子どもモデルのような化粧をしたいと言い出してきかなかったり、幼稚園や保育所に化粧をして行きたがったりするという話題を、保護者からよく聞くようになった。幼児にとって化粧が身近なものに

なりつつある状況で、保育者は子どもの化粧意識や身だしなみに大きく影響を与える存在と言える。保育者は社会人としての身だしなみとしてだけでなく、子どもやその保護者、同僚などからどのように見られているのかを意識して化粧をしていると考えられる。

そこで本研究では、保育者を対象に、保育者は勤務中にどのようなことに配慮した化粧をしているのかを明らかにしたいと考えた。具体的には、勤務中と休日の化粧の仕方の違い、化粧をする際にどのようなことに配慮しているのか、勤務園における身だしなみに関する規則の有無、化粧や髪型、髪色について子どもや保護者、他の保育者から指摘の有無などを明らかにした。

II. 方法

1. 調査対象者

埼玉県、茨城県、広島県で開催された保育者を対象とした研修会（それぞれの県で1か所ずつ）に参加した女性保育者1200名を調査対象とし、921名から回答を得た（回収率77%）。そのうち、回答に不備のあるものを除き、839名の回答を分析対象とした。

2. 調査手続き

任意による無記名自記式質問紙調査を行った。研修会の主催者に依頼し、承諾を得た研修会において、参加した保育者に質問紙と返信用封筒、依頼状を添えて渡してもらった。回答後は、添付した封筒に入れて、郵送するように依頼した。なお、郵送する際には、封筒に園名、氏名、住所等の個人が特定される情報を記入しないように依頼状に記した。調査時期は、2016年7月～9月であった。

3. 倫理的配慮

筑波大学医学医療系医の倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号1026）。

III. 結果

1. 調査対象者の属性

表1に調査対象者の属性を示した。表によると、20代が6割以上を占め、比較的、若い年齢層であった。子どものいる者は25%であった。また、所属はほとんどが私立の幼稚園あるいはこども園であった。

2. 化粧の仕方

普段の勤務の際および休日の外出の際に、化粧をするかどうかを尋ねたところ、普段の勤務では88%が、また休日の外出では98%が化粧をすると答えた。普段と休日のそれぞれの化粧をする時間、髪型をセットする時間を尋ねたところ（表2；化粧をする時間に関しては、化粧をしていない者を除く）、化粧もヘアセットも普段の勤務では、どちらも休日の外出時よりも有意に短く、化粧とヘアセットの平均はともに10分に満たないことがわかった。

また、どのような化粧をするかを尋ねたところ（表3）、普段の勤務では多くの者がファンデーションを塗っていたが、チーク、アイシャドー、口紅、マスカラをつける者は少なかった。休日では、ファンデーションを塗ることはもちろんであるが、アイシャドー、チーク、口紅、マスカラをする者が多く、普段と休日では異なる化粧をしていた。

表1. 調査対象者の属性 N=839

年齢	20代	62% (522名)
	30代	19% (157名)
	40代	10% (85名)
	50代以上	8% (72名)
	無回答	1% (3名)
所属	公立幼稚園	1% (11名)
	公立保育所	0
	公立こども園	1% (1名)
	私立幼稚園	59% (500名)
	私立保育所	1% (1名)
	私立こども園	35% (299名)
無回答	3% (27名)	
保育歴	8.50 (±8.64)	

表 2. 化粧、ヘアセットにかかる時間

	普段	休日	t 値
化粧	7.98±4.56 min	15.69±8.67 min	25.63 (df=655) **
ヘアセット	5.22±3.99 min	10.49±6.96 min	23.78 (df=805) **

** : $p < 0.01$ 、化粧にかかる時間は化粧をする者のみを対象としている

表 3. どのような化粧をするか (選択式)

N=839

	普段	休日	χ^2 値あるいは p 値*
ファンデーション	86% (717 名)	96% (803 名)	110.64**
チーク	43% (362 名)	79% (659 名)	160.74**
アイシャドー	31% (258 名)	80% (669 名)	77.43**
口紅	19% (161 名)	67% (559 名)	88.96**
マスカラ	16% (135 名)	67% (562 名)	65.70**
香水・コロン	2% (18 名)	32% (266 名)	0.000 *
つけまつげ	1% (2 名)	5% (39 名)	0.091 *
化粧をしない	12% (103 名)	2% (20 名)	43.33**

** : $p < 0.01$ 、* : Fisher's Exact Test

(複数回答)

マニキュアやペディキュアを普段の勤務の際と休日の外出の際につけているのかを尋ねたところ (表 4)、マニキュアを普段の勤務の際に「だいたいつけている」あるいは「時々つけている」と答えた者は 5%に過ぎなかったのに対して、休日の外出の際には 25%であり、保育の仕事をしている際にはマニキュアをせず、休日のみ楽しむ者がいることがわかった。ペディキュアについては、マニキュアよりも普段の勤務の際にもつけている者が多かった。

表 5 に化粧について気をつけていることを尋ねた結果を示した。表によると、普段の勤務の際にも休日の外出の際にも「派手にならないようにする」と答えた者が最も多かったが、普段の勤務の方が休日の外出の際よりも有意に気をつけている者の割合が高かった。

また、休日の外出の際には「自分がよいと思う化粧をする」と答えた者が半数以上であったが、普段の勤務の際にはそのように回答した者は 9%しかおらず、普段の勤務では自分の好む

化粧ではなく、保育の場で求められる化粧を心がけている者が多いことが確認できた。

3. 勤務園における身だしなみに関する規則

勤務園において身だしなみに関する規則があるかどうかを尋ねたところ、あると答えた者は 73% (611 名) であった。あると答えた者に、どのような規則があるのかを尋ねたところ (表 6)、「ピアス」「マニキュア」「指輪やネックレス」などの装飾品の着用の禁止、「髪の色」「派手な服装」といった派手な髪や服装の禁止を答えた者が半数近くいた。一方、「化粧をしてはいけない」という規則があると答えた者は 3%に過ぎなかった。これらのことから、幼稚園や保育所では化粧をすることは構わないが、子どもの安全のために装飾品を着用しないこと、品位を落とさないように華美、派手にならないことが求められているようであった。

4. 勤務をしている際に他者から化粧、髪型や髪色について言われたこと

勤務をしている際に、子どもや保護者、他の

表 4. マニキュア、ペディキュアの塗布の有無（選択式）

N=839

	マニキュア		ペディキュア	
	普段	休日	普段	休日
だいたいつけている	1% (1名)	1% (8名)	4% (35名)	6% (50名)
時々つけている	4% (31名)	24% (204名)	22% (181名)	36% (304名)
あまりつけない	9% (74名)	24% (201名)	16% (134名)	21% (174名)
全くつけない	85% (724名)	50% (417名)	57% (482名)	36% (304名)
無回答	1% (9名)	1% (9名)	1% (7名)	1% (7名)

表 5. 化粧について気をつけていること（選択式）

N=839

	普段	休日	χ^2 値あるいは p 値*
派手にならないようにする	61% (509名)	59% (492名)	50.43**
元気に（顔色が明るく）見える ようにする	33% (275名)	30% (255名)	218.39**
自分がよいと思う化粧をする	9% (76名)	51% (431名)	55.51**
若々しく見えるようにする	5% (39名)	12% (100名)	235.97**
子どもから「かわいい」と言っ てもらえるようにする	2% (16名)	1% (8名)	0.000 *
特に気にしていない	22% (184名)	10% (86名)	104.38**
その他	1% (12名)	1% (7名)	—

** : $p < 0.01$, * : Fisher's Exact Test

(複数回答)

表 6. 勤務園における身だしなみに関する規則（選択式）

n=611*

ピアスをつけてはいけない	69% (424名)
髪の毛を明るい色に染めてはいけない	57% (349名)
マニキュアをしてはいけない	57% (347名)
派手な服装をしてきてはいけない	54% (328名)
指輪やネックレスをつけてはいけない	48% (292名)
化粧をしてはいけない	3% (15名)
その他	7% (43名)

* 勤務園に規則があると答えた者を対象

(複数回答)

保育者から化粧、髪型や髪色について何か言われたことがあるかについて尋ねたところ（表 7）、保護者や他の保育者から言われた者は多くなかった。子どもから言われた内容の例を表 8 に示した。化粧に関しては、ほとんどが回答

1~5 のように、子どもから「(化粧をしている部分が) かわいい」と言ってもらったことが書かれていた（回答があった 239 件中の 61%）。なかには、回答 7、8 のように、子どもが化粧と思わずに「熱中症」や「虫刺され」と感じた

ケースがあった。髪型や髪色についても、回答 9～12 のように女兒が好むアニメキャラクターの髪型のように伝える発言が目立った(回答があった 372 件中のうち 13%)。また、回答 13～15 のように、保育者の髪型が自分と同じであることを喜んだり、保育者の髪型を真似したがったりする発言が多かった (18%)。

保護者から言われた内容の例を表 9 に示した。保護者から化粧、髪型や髪色について、苦情を言われた者はおらず、保育者の化粧の変化、髪型や髪色の変化に気づいてもらったり、似合うとほめてもらったりする内容がほとんどであった(化粧：回答があった 32 件中のうち 50%；髪型や髪色：回答があった 121 件中のうちの 82%)。また、子どもが保育者の髪型の真似をしたがる、母親にも保育者のような髪型にするように言うなどの意見があった (8%)。

他の保育者から言われた内容の例を表 10 に示した。子どもや保護者から言われた内容とは異なり、園長や主任などから、化粧、髪型や髪色を直すように指摘されたという意見が目立った(化粧：回答があった 27 件のうち 44%；髪型や髪色：135 件のうち 59%)。化粧については、回答 30～32 のようにナチュラルに、あるいは化粧をしないように注意を受けるケースがある一方で、回答 33～35 のように化粧をするように指摘されているケースもあった。

髪型や髪色に関しては、回答 43 のようにほめられるケースは少なく、長い髪を束ねる、あるいは切るように言われたり、髪色を暗くするように指摘されるケースが目立った。

IV. まとめ

本研究の結果、保育者は普段の勤務と休日では化粧や髪型を変えており、勤務の際には派手にならないように、配慮していることがわかった。その一方で、女兒が好むキャラクターの髪型にして、子どもに親しみを持ってもらえるようにしている保育者がいることが確認できた。

化粧の内容を見ると、普段の勤務ではファン

デーションのみ、あるいはファンデーションとチークのみの人が目立った。また、子どもや保護者から化粧や髪型について言われたことを見ても、行事の際には子どもや保護者が普段との違いに気づくことがあり、普段の勤務では薄く派手でない化粧をしていることがわかる。おそらく、保育の場では元気に見えつつ、屋外での活動の際に日焼けをしないために肌に気を遣うことは重視される一方で、口紅やアイシャドウなどの色を使うことが好まれないために控えていたと思われる。

萩 (2017) は、看護師の化粧について、ファンデーションのみの場合とファンデーションにチークと口紅を足した場合の印象の違いを測ったところ、看護師の化粧として、ファンデーションのみの場合の方がファンデーションと口紅をしているときよりも印象が悪かった。医療機関と保育の場において、望まれる化粧の質が異なると思われる。

また、子どもや保護者から化粧や髪型について否定的な意見を出されることはほとんどなかったが、他の保育者からの指摘が目立った。水野・徳田 (2008) は、就職後 3 か月の保育者を対象に、職場適応の状況と阻害要因を検討したところ、同僚保育者から身だしなみについて指摘されることに不満を感じて、職場に不適應を起こしている人がいることを確認している。保育者として数年、勤務していれば、職場の雰囲気や察して、どの程度の化粧や髪型をすればよいかのかがわかってくるであろう。しかし、初任の保育者にとっては、保育の場でどのような身だしなみが求められているのかがわからず、またそれぞれの勤務園によって化粧が禁じられたり、逆に社会人のマナーとして化粧をするように求められたりと、内容の違いが生じることから、とまどいが生じる。本研究で、保育者がどの程度の化粧をしており、一般的にどのような化粧が求められているのかが確認できたことによって、初任の保育者が勤務する際の不安解消の一助になると思われる。

表 7. 化粧や髪型・髪色について何か言われた経験 N=839

	化粧	髪型・髪色
子どもから	31% (253名)	47% (397名)
保護者から	4% (32名)	16% (130名)
他の保育者から	4% (34名)	17% (146名)

(複数回答)

表 8. 子どもから化粧や髪型・髪色について言われた内容 (自由記述式)

回答	
1	お化粧している。ピンクかわいい
2	今日目が変だよ。かわいい
3	目がキラキラしていてかわいい
4	先生のお口の色きれいだね
5	(ちゃんと化粧をしている時には) かわいいお姫様みたい。
6	行事の時に化粧をすると「今日お化粧している」と驚かれる
7	「先生のほっぺ真っ赤だよ。お水飲んだ方がいいよ」と夏の暑い時期に、熱中症を心配してくれた。
8	ほっぺ、蚊に刺されたの？(赤いチークを塗っていたから)
9	先生の髪、ラブンツェルみたいね
10	エルサみたい。先生と同じにしたい。
11	プリンセスみたいだね
12	アナみたい。先生の髪のもかわいい私と一緒にだね
13	先生と私、三つ編みしていて、一緒だね
14	今日の先生と私の髪型、一緒だよ！
15	先生と同じ髪型になるように結んで
16	先生の髪飾りお星さまでかわいい

表 9. 保護者から化粧や髪型・髪色について言われた内容 (自由記述式)

回答	
17	今日の化粧良いですね
18	夕涼み会の時にしたら、雰囲気違っていいと言われた
19	(ファンデーションを塗って行ったら) 今日、調子悪いですか？
20	なんでほとんど化粧しなのですか？
21	うちの子が先生のことをかわいって言っていました
22	肌がきれいですけど、すっぴんですか？
23	髪型変わりましたね
24	サイド編みこみなど、少しこった髪型にするとやり方を聞かれる
25	先生って髪の毛染めちゃだめなんですか？
26	髪色変えたんですね
27	子どもが先生と同じ髪型にしたいと言っています
28	先生と同じ髪型にしたいって子どもに言われて、先生と同じようにしたんですよ
29	子どもがママも先生の真似をしてと言っています

表 10. 他の保育者から化粧や髪型・髪色について言われた内容（自由記述式）

回答	
30	化粧が濃すぎるので、薄くするように
31	チークの色が少し濃い
32	自然体でいることを園の方針としているため、園長からお化粧してはいけないと言われた
33	園長に「ちゃんと化粧しなさい」と言われた
34	園長から顔色がよく見えるようにチークや口紅をするとよいと言われた
35	化粧は必ずしなさい。すっぴんで保護者や園児と顔をあわせるのは失礼だ
36	髪の毛を結ぶように言われた
37	園長から前髪を短くするよう言われた
38	前髪が顔にかかりすぎていて、表情が見えにくいので、切るかピンでとめるかをしなさいと言われた
39	教務主任に髪色が明るすぎると言われた
40	髪を染めてはいけない
41	明るい髪色の方が、表情が明るく見えるよ
42	園長から暗く見えるから、少し染めてみたらと言われた
43	短い方がかわいいね

今後は、保育者がどの程度の化粧をするかによって、保育者や保護者がどのような印象を持つのかを具体的なケースを用いて明らかにするとともに、他の保育者から指摘される内容について、保育者自身がどのように感じているのか、年代によって違いがあるのかについて、確認していきたい。

文献

- 安藤清志・大坊郁夫・池田謙一（1995）社会心理学現代心理学入門 4，岩波書房。
- 萩あや子（2017）患者や家族と看護師の化粧に対する認識の比較に関する研究，コスメトロジー研究報告，25，130-137。
- 平松隆円・牛田好美（2004）化粧に関する研究（第4報）－大学生の化粧意識とそれを規定する個人差要因－，繊維製品消費科学，45（11），63-70。
- 平松隆円・牛田好美（2007）化粧規範に関する

研究－化粧を施す生活場面とそれを規定する化粧意識と個人差要因－，繊維製品消費科学，48（12），843-852。

水野智美・徳田克己（2008）就職後3カ月の時点における新任保育者の職場適応，近畿大学臨床心理センター紀要，2008，1，75-84。

大坊郁夫（2001）化粧による自己表現，高木修監修『被服と化粧の社会心理学』，北大路書房，105-107。

笹山郁生・永松垂矢（1999）化粧行動を規定する諸要因の関連性の検討，福岡教育大学紀要，48，241-251。

清水麻莉子・森田美弥子（2016）カウンセラーに対する知識とイメージの検討－身だしなみや外見に着目して－，名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要．心理発達科学，63，119-127。

徳田克己・水野智美（2018）幼児雑誌の中に見

られるキッズコスメ, 日本保育学会第 71
回大会発表論文集, 印刷中.
宇野保子・近藤信子・中川早苗 (2006) 身体装
飾について—第 1 報 ファッション意識と
の関連—, 中国学園紀要, 5, 1-8.
柳澤唯・安永明智・青柳宏・野口京子 (2014)

女性における化粧行動の目的と自意識の関
連, 文化学園大学紀要. 人文・社会科学研究,
22, 27-34.

付記

本研究は平成 27 年度公益財団法人コスメト
ロジー研究振興財団の助成を受けて行った。

Nursery teachers' appearance while they are working

The purpose of this research is to clarify what nursery teachers are careful about when they work at a kindergarten or a daycare center. A questionnaire survey was conducted to 839 female nursery teachers.

As a result, they change how they dress during work and on their day off. While they are working, they tried not to be flamboyant. On the other hand, there was a nursery teacher who does her hair in the same way as the character that girls like so they appear friendly to children.

They rarely had any negative opinion from the children and parents, but other nursery teachers pointed it out to them. However, in some cases, they tell them to put natural makeup or no makeup at all, in other cases, they tell them to put makeup on, so the policy was different depending on the workplace.